

NEWS RELEASE

**ニッケの研究開発センターによる創薬安全性評価技術の研究に関する発表が  
 第14回日本安全性薬理研究会学術年会において  
 JSPS 優秀研究発表賞を受賞しました**

第14回日本安全性薬理研究会学術年会において、当社研究開発センターの創薬安全性評価技術研究に関するポスター発表が JSPS 優秀研究発表賞を受賞いたしました。

日本安全性薬理研究会 (Web サイト <https://www.j-sps.org/>) は、2009年12月に設立された、薬の安全性評価に特化した研究会であり、製薬企業、医薬品開発業務受託機関、大学、研究機関、その他企業で構成されています。第14回学術年会は、2023年2月17日～18日に東京大学弥生キャンパスにて開催されました。

**【受賞の概要】**

1. 当社の受賞者

早乙女 俊樹、中野 恭裕、島田 直樹、遠山 由貴、松崎 佑佳、綿引 優花

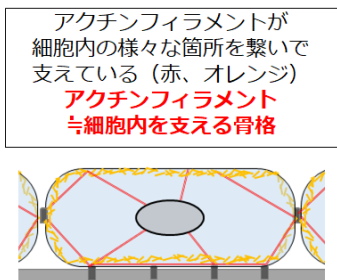
2. テーマ

HDAC 阻害薬によるヒト iPS 細胞由来心筋細胞の収縮機能不全に対するアクチン細胞骨格の崩壊の影響

3. 研究の意義

従来の抗がん剤による心筋細胞への副作用の評価は、細胞自体の様々な機能を複数の分析システムにより個々に確認する必要がありました。今回の研究では、細胞骨格のうちアクチンフィラメントに着目し、抗がん剤投与後のアクチンフィラメントが崩壊した度合いから心臓の収縮力に影響が生じていると推測、その影響を実証しました。

今回の研究は、心筋細胞以外の様々な細胞についても、アクチンフィラメントの定量により細胞が受けた副作用の有無をより効率的に推定することを可能とするものです。



心筋細胞に対する毒性評価方法を見直す

	従来の評価評価	今回の評価方法
着眼点	細胞自体の機能を個々に確認する (それぞれ分析システムが異なる)	細胞を支える骨格が大きく壊れていれば、細胞自体の動きにも支障があると推測 <b>細胞骨格の構造変化に着目</b>
評価	拍動数は? 不整脈は? 収縮の力は?	細胞骨格の壊れ度合いから、細胞内部の様々な機能への影響度合いを把握可能
結果の考え方	それぞれ確認して総合的に評価	細胞骨格が壊れていれば、毒性がある可能性が高く、必要時に詳細に評価

以上

«本件に関する問い合わせ先»  
 研究開発センター  
 早乙女 俊樹  
 Tel : 079-431-2105